

第1 決算審査特別委員会（第2日目）

H20. 9. 18(木) 10:00～

第二委員会室

開 会 10:01

委員長

委員動静報告～全員出席。これより本日の会議を開く。

労働費・農林業費・商工費

委員長

労働費・農林業費・商工費について説明を求める。

多田部長

（労働費・農林業費・商工費について説明する。）

委員長

説明が終わった。これより質疑に入る。質疑はあるか。

渡 辺

① P195、労働費全体として、シルバー人材センター、職業訓練センター、勤労青少年ホームの費用について、一方では労働者関係としてはワーキングプアや派遣や失業とかが社会的に問題になっている。滝川でも当然そういうことがあるわけで、係ではどうにもならないかもしれないが、市長の方針では労働者を大切にというようなことなので、根本的に労働費 4,300 万円という額にもう少し費用をかけてしっかりと対策したほうがいいと思うがいかがか。

② P203、土地改良に要した経費が 3,600 万円ほどで昨年までは5億円程度とすごい金額だった。相当大きかった国営の北空知土地改良事業の負担金がなくなっているが、事情等を説明願う。

③ P207、林業費の 7,300 万円近くについて、それぞれの経費は現時点で理解できるが、ことしの植林の場所、あの造林作業は相当山奥に入り込んで大変だったと思う。そういう意味ではまだまだ農地を手放して荒地になっているフリーの土地がある。例えばゴルフセンターあたりは元農地である。そんなに高くないと思うので山奥のほうに入るのは結構だが、効率からいくとそういう安い農地、今は農地でないかもしれないが、そういうものを求めたほうがいいのではないか。今後の考え方を伺う。

④ P209、さまざまな中心市街地活性化、商業振興費全体について、事業が相当減少した感があるが、補助金、負担金、対策費などそれでも数億円をつぎ込んでいる。費用対効果が上がっていないと市民は見ており、特にアクロスプラザの商品量・価格と中心市街地の商店街の商品量・価格とは差があると見ているが、そういう意味で財政の支援というより先日のマラソン大会のような中心街でたくさんの外部の方々も呼び込むような支援に変更する時期と思うがいかがか。

⑤ P211、東京滝川会の交付金はいいと思うが、350 人ほどの人数で、これらの方々に移住について積極的に働きかけてもらわなければならないと思う。そういった活動の様子について伺う。

⑥ P211、スカイスポーツに要した経費で、昨年は 400 万円程度だったが半分程度になり大変いい傾向と思う。償還金の補助金がほとんど終了したということだと思うが事情を説明願う。

⑦ P213、丸加高原伝習館運営管理費の 2,800 万円程度だが、昨年の決算では支出、収入それぞれ 3,370 万円程度だった。民間に管理委託をすると 540 万円ほど少なくて済んだという努力の様子を説明いただきたい。

新井課長

② 昨年よりかなり下がっているが、これは国営北空知土地改良事業工事負担金を 18 年度に繰り上げ償還ということで一括支払いをしたことで4億5,000 万円減少している。そのほかに道営東滝川地区の工事負担金が 420 万円くらい減少したこと、手島地区の工事負担金、エルムダムのほうも 240 万円くらい下がったとい

う事情がある。

③ 現在滝川市では公的分収造林、公団、ルネサンスの森というところで林業振興を展開して力を入れていることで、今のところ私有地を求めてやるところまでは至っていない。

若山課長

① 労働諸費の中で P195、通年雇用促進という形で所管とタイアップする中で市内の企業主さんも含めてどういう形でやっていったらよいかも含めて対策、そして国の補助を受けながらやっているところである。この中で中空知地域職業訓練センター協会負担金の中の滝川市の負担金を有効に活用いただいて職業を持っている方も今職業を持っていない方に対してもこれからどういう技能をつけたらいいという形で講習等も行っている。直接的ではないが補助金で技能協会、滝川地方職業訓練協会などの協会の活動を補助することで間接的に雇用促進という中身で進めているところである

④ 街なかという形で先般コスモスマラソンを開催し 1,100 名程度のランナー、応援についてきている方で盛況だったところだが、商工労働課としてもそれを支援するような形で出店を出し、各個店を回って当日はシャッターを下ろさないで商売をしていただきたいということで働きかけている。委員が言われた方向転換ということでは、街なかだけの商工業振興費ではないことで、中心市街地を今後どうしていくか、街なか賑わいづくりの補助金の中で盆踊りなどいろんなイベントに対しても補助しているということで、予算の範囲内ではあるが積極的に支援し、職員も汗を流して進めているところである。

⑤ 東京滝川会は 350 人程度ということで 19 年度は若干会員数が落ちて三百十数人ということだが、移住・定住関係では企画課とタイアップして PR 活動に努めた。アンケート調査なども進めており、ことし 10 月中旬には総会もあるのでそちらでも努めていきたいと思っている。

⑥ 償還金補助金が順々に減っていつにという中身で、平成 19 年度ですることによって理解いただきたい。

⑦ 確かに市の負担は減ったという中身だが、管理代行している企業からは相当苦しい経営結果が報告されている。市の負担は減ったにせよ丸加高原を今後どうしていくのかということで今問題を投げかけているのも事実だが、管理代行でこれだけ市の支出が減っているというのは事実である。

渡 辺

担当としては市のもので相当な丈の林をどれだけ費用がかかっても造林作業をしたほうがいいと思うかもしれないが、農地がフリーになった土地の価格そのものが下落しているはずなので、試算してみてもいいかがか。役所としての事情はわかるが、費用対効果としては買い入れたほうがずっと安いこともあるかもしれないので調べることにいいかがか。

多田部長

毎年ルネサンスの森で植樹祭を開催し、年々参加者もふえ、最近では企業による参加者もふえている。年に一度は丸加高原の奥のルネサンスの森に来て鳥の鳴き声やこういうところもあるということを感じていただきたい。ルネサンスの森もいずれ植林の限界が来ると考えており、委員の話にあったような場所についても考慮していく部分もあると思うが、遊休農地については発生しないように農業委員会も農政課も努力して限りなく削減していこう、あるいは遊休農地の中で生産性が上がるものを作付していこうという観点から努力しているところで、遊休農地についてはそういった流れの中で検討していきたいと思っているので、現在においての調査は必要ないと考えている。

委員長
副委員長

他に質疑はあるか。

① 新規就農対策で施設園芸農家への就農、新規だから後継者は別として耕地農業に対する新規就農対策がどう行われてどんな効果が出ているのか伺う。

② リンゴ農家についても、19年度で2軒か3軒がやめておりもったいないと思う。リンゴ農家の新規就農とかは全く無理なのか。どういうふうやってきたのか伺う。

③ 農地・水・環境で総額は3,000万円台だが、活動の内容としては大きく3つに分けられる。農村環境向上活動と生態系保全や景観形成など農村の環境をよくする活動、2番目に農地・水向上活動、施設の長寿命化につながるきめ細かな保全管理、3点目として資源の適切な保全管理、維持保全のために必要な基礎的な活動ということで、三千数百万円がどういう内訳で使われたのか伺う。

④ エルムダムの19年度の利用件数について伺う。わかれば深川、芦別、赤平のデータも伺う。

⑤ 中山間地域等直接支払交付金については、22年度から改定になることで1割、2,000万円だったら200万円ということで非常に大きい、知事特認の5法地域と地理的に接し、自然条件が連続する9市町村内の地域、ただし、要領を定める基準を満たすということで、そろそろ滝川が認定されてもいいと思っている。どんどん人口も減っており、周りは中山間地の過疎法の指定地域ということで特認のCにはほとんど該当すると思うが、19年度の活動効果について伺う。

⑥ アライグマ被害については、意外に被害はないとの答弁を受けているが、部分的にはすごい被害という方もおられる。どんな費用、どんな対策を取っているのか伺う。

⑦ 道の駅の件について、備考欄に載っていないがどこの経費に指定管理部分が載っているのか。道の駅は指定管理先の経営状態がかなりいいと聞いており、3年くらい前から役員手当も払われるようになり、恐らく課税団体にもなっていると思う。道の駅の経営状態、どれくらい税金を納めているとかで判断できると思うが、これとの関係で指定管理価格が妥当だったか伺う。

⑧ スカイスportsの関係で、人件費は今1.5人ということで総額が幾らか伺う。社団法人スカイスports協会の予算総額と社団法人の中の人件費、何人働いていて総額が幾らか。過去に地元企業の取引額や観光客、延べ宿泊客数、日帰りの人数、トレーニング、体験搭乗で何人とかいうものがああったが、そんな細かくなっていいのでスカイスportsの経済効果について伺う。

⑨ 中心市街地活性化対策が19年度中にどれだけ前進、維持、後退したかについて、2つの指標で答えていただきたい。まず街なか居住がどれくらい変化したか。それと商店の数あるいは空き店舗の数でお願いする。

阪本主査

① 新規就農については、トマトと花を中心に募集している。トマトと花については花・野菜技術センターがあり、新規就農者に対して技術指導ができるのが一番大きな点である。指摘のあった耕地農業の新規就農者については、現在国のほうでも経営譲渡ということでリレー方式を検討しており、滝川市においても10年後くらいには離農される方がふえると思うので、後継者の後に新規就農者が入るというリレー方式を検討しているところだが、具体的な内容が固まり次第報告させていただく。

木村主査

② リンゴ農家については、純然たる新規就農というものは非常に困難と認識している。リンゴの場合は、新規で植えた場合、収穫までに最低でも3年、通常は

5年から6年かかる。これはわい化栽培の場合で、昔からあるスタンダードの木だと十数年かかるということで、経済的に見合うまでに非常な年数がかかることが1つある。また、新植の場合、通常 10 アール当たり 30 万円程度かかるということで費用的にも非常にかかるということがある。また、技術的な部分というものもある。リンゴには剪定の技術というものもある。放置しておけば実がなるというのではなく、実摘み、葉摘みというようなかなり経験を要する技術もあり、実際Uターンで戻ってきている方もおられるが、すべてそれはリンゴ農家の家ということで、新規でそれらのリンゴの栽培技術を習得するのはかなり困難と考えている。

日口副主幹

⑧ スカイスports関連の市職員は、平成 19 年から私 1 人となっている。社団法人の年間予算については、ここ数年 5,000 万円から 5,500 万円程度で推移している。予算の中の社団の人については、正職員が 2 人、夏の間の臨時職員が 4 人、役員が 1 人いる。年間に訪れる愛好者は延べ人数でだいたい 2,000 人、体験飛行については 1,500 人くらいが訪れている状況である。体験については、そのうちの半数が観光客で、半数が市内となっている。経済効果としては市内の取引額が 1,200 万円程度で、愛好者、体験の方々が市内に落としていくのが 1,000 万円程度と我々のアンケート調査では出ている。その他新聞をはじめとしたマスコミ報道の換算レベルで 5,000 万円から 7,000 万円ほどの宣伝効果が出ていると試算している。

千田室長

⑨ 19 年度については旧元気タウン計画の中で進めてきたことで、20 年度から新しい滝川市中心市街地活性化基本計画という中で進めているところである。19 年度においては、空き店舗が 38 店から 41 店ということで 20 年 3 月末で 3 店ほどふえている。街なか居住の人数は資料を用意しているので待っていただきたい。

新井課長

③ 農地・水については、内訳的な資料を持っていないので後で答弁させていただく。

④ 19 年度の利用戸数については、滝川市は 11 戸である。18 年度において 2 戸ふえ、18 年度中に少し動いたので 19 年度から 1 戸使ってもらえるということでまたふえる。ちなみに深川については、11 戸、赤平市はゼロとなっている。そのほかに国営音江山ということではなく、芦別については芦別の畑かんの事業があって利用戸数は 18 戸と聞いている。

⑥ 農地・水・環境保全向上対策の中でも江部乙東側のほうで箱穴を仕掛けるといった活動をしている。捕まえたのは 19 年度は 1 頭で、アライグマの好物はトウキビやスイカと聞いているが、滝川市の場合はトウキビ、スイカについても自家用が中心で被害としての報告はされていないということもある。基本的にそういう取り組み以外の部分については、くらし支援課のほうで箱穴の貸し出し、箱穴を使うための講習会をやっているということである。

⑦ 道の駅の指定管理料というのは市では出していない。支出ゼロという形である。19 年度の経営状況だが、300 万円程度の利益で 100 万円弱の法人税、住民税を払っているので最終的な数字で 200 万円程度の黒字となっている。

⑤ 滝川市は過疎の部分がないことで 5 法の中に該当しないということである。知事特認については検討している中身ではないということである。

千田室長

⑨ 街なか居住についてだが、平成 19 年度においては 2,664 人から 2,632 人になっているので 32 人の減少である。

多田部長

⑤ 補足させていただく。この制度ができる前の早い段階から滝川が該当になら

ないかということで活動してきており、現在も該当にならないかということについて検討しているところである。知事特認がどうか、知事特認の中でも何とかならないかということでやってきたが、傾斜等の関係やもろもろの要件に該当にならないことから手を下げざるを得ない。今後国のほうで制度が更新される段階で、規制の緩和などについても要望していきたいと考えている。

委員長
副委員長

農地・水関係の答弁がまだのようなので、再質疑はあるか。

① リンゴについてだが、私が聞いているのは全くの新規ではなく、何千本と植えている木をことしでやめるということで全部切ってしまうので、切る前に挑戦してみる方はいないかといった方法での継続も難しいのかということである。やめる5年くらい前に修行に入ってもらってやるとか何かしないと江部乙リンゴの火が確実に消えてしまう。そういう対策が無理なのかということである。

② 中心市街地についてだが、あれだけ老人マンションあるいはケアハウスが建っても減ってしまうのは、どういう部分なのか伺う。

③ 道の駅の総売り上げは幾らだったのか。利益が出ており、市の施設で300万円の利益で100万円の税を払っているのだから200万円が資本蓄積されていく。市の施設をただで貸していることになるので、指定管理料を取るべきという話にならないのか伺う。

木村主査

① リンゴをやめる方との話だが、20年度においてリンゴの改植についての補助ということもやっている。また、リンゴの改植についての事業というのも何度か行ってきており、それにより現在のリンゴ栽培されている農家の方が少しでも収益性を上げられるように、あるいは面積が減ることを少しでも食い止めようということも行っている。リンゴについても、園地についても品種が非常に移り変わってきており、古い品種というのはほとんど残っていない。現在においても毎年リンゴ農家は一部を新しい品種に植えかえているということで、私たちが聞いたことがないような品種がどんどん入ってきている。実際に抜根されたという方もおられるが、これについても農協、農業委員会と共同する中で、現在の担い手と言われるリンゴ農家の方になるべく引き受けていただけるよう働きかけているが、リンゴ農家の方も高齢化してきており、そういった方々についての廃園となるような部分を引き継いでの新規就農ということは、時間もかかり、困難な部分もあると思うが、今営農されている方々への支援については講じてきている。

千田室長

② 基本的には19年度に新しくふえた老人マンションというのは寿泉さんで、それ以前について統計を取っているわけではないが、自然減と老人マンションを合わせると三十何名で収まっている。中心市街地エリア内の老人マンションでは萌さんや寿泉さんがあるが、その他についてはエリア外のところもあるのでそんなにエリア内に老人マンションが建っているわけではない。

新井課長

③ 道の駅で売上高として計上しているのは4,300万円くらいだが、これは、ほかの農産物等について手数料が入ってくることによって実際の売上高とは別になってくる。3年間は指定管理ということで期間中は協定を結んでやっていることもあり、次の協定の段階で検討したい。

副委員長

道の駅の今の管理組合の売り上げと思うが、そうではなくてそれぞれの農産物や楽楽とかの総売り上げが幾らか伺う。また、人件費総額がどれくらいかについても伺う。

委員長
副委員長

答弁の準備ができるまでほかの質疑はあるか。

スカイスポーツで経済効果として2,000人くらいとのことなので恐らく半分くら

いが宿泊されていると思う。この前の日曜日のコスモスマラソンとねんりんピックのプレ大会で 1,100 人のランナーが走り、そのうち七、八百人が市外関係者ということでホテルスエヒロさんにこの関係で何人が泊まったか聞いてみた。前泊についてははっきりしないが、後泊については名護の方が 3 人だけで前泊もほとんどいなかったのではないかという話を聞いた。入り込み数と宿泊数との関係で観光全体という観点で、市の関係しているイベントの宿泊についての効果という点で伺う。

委員長

いったん休憩する。

休 憩 10:58

再 開 10:59

委員長

休憩前に引き続き会議を再開する。答弁願う。

若山課長

イベント関連だけの宿泊数は押さえていない。19 年度いろんな形で調査した結果、滝川の年間宿泊客というのは 2 万 4,000 ちょっとと押さえている。その効果というものは、それぞれのホテルに泊まった、そのときに飲食をしたということはあるが、イベントだけでどれだけ泊まったかという全体的な数字は押さえていないので理解願う。

新井課長

人件費としては 1,300 万円程度である。これについては役員報酬、事務員の部分も含まれていると思う。

委員長

他に質疑はあるか。

井 上

① P195、シルバー人材センターの関係の 1,428 万 1,000 円について、砂川と滝川のシルバー人材センターということで吉岡市長時代はかなり苦労してつくった協会である。聞いたところによると、滝川と砂川を分離するといった動きがあるということで、合併の方向に向かって進んでいる中で逆方向のような気がする。この 1,400 万円というお金が登録人口とかどういうものに基づいているのか伺う。また、これの補助金での裏打ちがどうなっているのか。分離した場合にそれなりのデメリット、こういう形態でやっているところは余りないと聞いているが、いよいよとなったときは市もいろいろと乗り出していかななくてはならないと思うがいかがか。

② P201、賃金のところの 59 万円について、先ほど説明があつたが聞き逃したのもう一度願う。

③ P205、19 節の農地・水関係については、取り組みの減少という説明だった。結果的にこれだけの不用額が出たわけで滝川市全体を網羅する計画ということだったが、最終的にどういうことで取り組まない地域が出てきたのか、今後取り組む方向になるのか伺う。

④ 農地・水向上の分担金の 3,000 万円について、国が半分、道・滝川が 4 分の 1 ということで、4 分の 1 がこの金額なわけだが、当時、交付税で裏打ちをするということが言われていたが、本当にしているのか。その辺のとらえ方、どういうふうになっているのか伺う。

若山課長

① 数字的なことは今調べているので後でお答えしたい。シルバー人材センターの分離については、滝川・砂川の広域シルバーということで全国的にもめずらしい広域のセンターだが、砂川地区のほうから滝川地区のほうにそういう動きで文書が入ったというのは、平成 20 年度に入ってから現実的な動きである。滝川としても今後どうしていくかを含めながら、受け入れざるを得ない形とも聞いているが、正式に決まってはいるが、多分そういう方向になるのではないかという

形に行っているとは聞いている。砂川のほうは会員も充実してきており、向こう
独自でやっていきたいというような方向で滝川市のほうに申し入れが来たという
中身である。分離するメリット・デメリットについてまで詳しくは向こうとの調
査をしていないが、共同で今までやってきた中で、地域別という班もあるし、同
じ職の中でチームをつくったりしているので、その再編ということも出てくる。
もし分離した場合に予算的にどうなるのかもまだシルバーのほうでは組み立てて
いないと聞いている。

志賀室長

① シルバー人材センターの 1,428 万円の運営費については、国の基準で本来単
体の市町村だと 950 万円に該当するが、広域の場合は 1.5 倍が国の運営費として
拠出されるので 1,428 万円が 19 年度の決算額となっている。

新井課長

③ 平成 18 年度において各地区の組織でつくっていただけたような話を行って
いたが、最終的に池の前地区、江部乙の東側、19 丁目、3 連合の畑作地帯が取り組
まれないということになり、平成 19 年度においては農地面積の 80%カバーとい
うことで走っている。20 年度以降においても途中乗車は可能だが、意向を確認した
ところ、まだできないとのことである。

④ 当初は交付税として同額を措置するとのことだったが、滝川市に交付税とし
て措置されているのは普通交付税と特別交付税を合わせて 80%くらいなので、残
り 600 万円くらいが持ち出しとなるが、これについては農地・水向上対策を行う
ことにより、例えば道路愛護組合、河川愛護組合などはその事業に取り込んででも
らったことでの減額、農道管理についても土地改良区の農道管理料についての減
額で、その他も合わせると約 600 万円節約できた部分があるので、そういった意
味では交付税の 2,400 万円プラス 600 万円ですべて 3,000 万円ということで、ほぼ財源
としては確保できていると思う

多田部長

② 生産調整に要する賃金として持っていた部分だが、19 年度から生産調整の国
の制度が新しくなり、地域における事務費的なものは、今農協の営農センターで
農協さんと一緒にやっているが、協議会の事務費になった。今まで市町村の事務
費だったものが協議会の事務費に変わったことで、市の予算計上の対象にならな
くなったのが主な原因である。そういった中で 19 年度から制度がどのように変わ
ってくるのかという見込みを立てずらかったので、一般会計の中で賃金としてと
りあえず予算を持ったということである。先ほど説明させていただいたように農
地・水・環境の事務費を活用するというので、生産調整に持っていた賃金の部
分を農地・水の事務費としてきた部分があるので、その部分に振り替えたとい
う中身である。

井 上

① シルバー人材の関係について、近く正式な理事会にかけるといった話もしてい
るようだが、今の答弁だと砂川のほうから申し入れがあったとのこと、広域で
やったら 1.5 倍になるというメリットを捨てて分離する方向に行っているのか。
滝川市とは別団体の意思決定だからそれを尊重するといったものでもないよう
な気がする。滝川と砂川と登録人口はどうなっていて、滝川が単体でやることにな
ったら 1.5 倍の分が国から来なくなるし、今後を考えると市としてどうサポート
していくつもりなのか。先輩が相当苦労してつくった人材センターなので、全体
を見極めて判断してほしいが、副市長に答弁していただきたい。

② 農地・水の関係で、途中乗車も可能との答弁があったが、途中乗車ができ
ないというからかなり無理して乗った経緯がある。今になって途中乗車できるとい
うのはどういうことなのか伺う。交付税の裏打ちが 80%ということでこの事業は

国・道・交付税で賄われているすばらしい事業である。それも今まで支払っていた愛護組合等の分を支払わなくてよくなったので、全部で1億3,000万円ほどだが国・道に補てんされるということでよいのか伺う。

③ 生産調整の事務を農地・水・環境のほうでやれるという意味がわからなかったが、流用のような形になるのか説明願う。

副市長

① シルバー人材センターについては、吉岡市長、砂川の中川市長との連携のもと広域のメリットを出しながら、当時、労働省にかなり通って広域化を図ったと聞いており、今の宮島理事長はその点について歴史を踏まえた方である。砂川のほうから経営改善、今まで理事長が取り組んできたことも含めて砂川としては自立したいという方向で理事者協議を経て申し入れてきた経過のようなので、修復は不可能に近いと思っている。砂川もそのときに価格が上昇する、市の持ち出しがふえるということもわかっていて独立を容認したと聞いているので、相当な覚悟を持って自主路線を歩む判断を下したと思う。これに対して連携をしてもう一度合併をとほならないと思う。両方の理事会、滝川だけの理事会の方々ももう無理ということに至っているようである。ただ共有の財産などがあるので、その振り分けについて協議をしているようで、宮島理事長も独立した場合の滝川の経営安定を図らなくてはならないので、その改善策をどうするか理事会等でもんでいるということでもう少し推移を見てほしいという意向は受けている。もう少しその辺の推移を見て、広域でこれまで図ってきた歴史の中で広域化を図るのが理想体系だが、砂川の意向から考えると現状は無理という観点で受けとめている。以降は、滝川でどういう独立体制の中でやっていけるのかということ、行政としてどういうフォローがあるのかを含めて、そちらの方向にシフトせざるを得ないというのが今の私の率直な考えである。

多田部長

② 総事業費1億2,000万円のうち4分の1の3,000万円が滝川市の分である。このうち普通交付税が1,000万円、特別交付税が1,400万円である。特別交付税については、そのほかの部分と合わせてということになるが、計算上1,400万円ということで3,000万円のうち2,400万円が交付税措置の対象になっていると聞いている。ただ、特別交付税の総額の部分については、不確かな面もあると思っている。

③ 賃金の関係で、当初生産調整の事務ということで賃金の計上をしていた。農政課の業務自体が生産調整にかかわるものが多いという面、あるいは今まで国からの補助制度があったことから、パートの賃金について生産調整の中に含めている。ただ、生産調整の事務だけをするのではなく、農政課全体のいろんな各種補助事業などの事務等の補助も行ってきたということである。生産調整という中で持ってきた賃金を農地・水に変えたということで、生産調整の部分については、農協と一緒にあった協議会のほうで事務を担うので農地・水のほうへ振り替えたということで理解願う。

委員長
堀

他に質疑はあるか。

農地・水・環境で池の前、江部乙の東19丁目あたりの諸団体が取り組まないことになった理由を伺う。

新井課長

それぞれ地域の事情がある。池の前地区については畑ということで金額的にそう多くなく、活動項目についてもかなり取りづらい。田と畑の場合は活動項目にかなり違いもあったようである。地域として話し合いをしたが最終的には取り組まないことになった。江部乙の19丁目や畑の地帯については、今は江部乙東陽地域

ということで組織ができており、その中に取り込む形での話がされていたが、畑地帯の場合、単価的に田 3,400 円に対して畑 1,200 円ということがあるのと草刈り等もあって手が回らないということで取り組みが厳しいということから、全部ではないが畑地帯のかかなりの農家が抜けた。19 丁目については、一つの農事組合が最終的に農事組合の話の中で取り組まないことになったようだが詳しくは聞いていない。地域的に畑が多いことと高齢化している部分があると思っている。

委員長
新井課長

先ほどの副委員長の農地・水・環境のところの用途について答弁をお願いする。区分での金額だが、基礎部分の活動に要する経費として総額 4,620 万 5,505 円、農地・水向上活動については、4,297 万 1,711 円、農村環境向上活動については、544 万 8,706 円で、このほかに活動組織の管理運営に要する経費として、1,285 万 2,890 円ということで、事務費、事務機器、役員報酬等々である。また、初年度ということでこの事業については繰越金が認められており、多少絞ったということもあって繰越金は 1,254 万 3,283 円となっている。

副委員長

農業に直結した部分で 8,700 万円程度が使われているが、これは今までは農業者が自分の経営の中でやっていたわけで、それに対して支払われていた。具体的な支払われ方だが、農地の草取りをした場合はどう支払われるのか。面積に比例してやったのか。農道や水路などの共有部分についてはどう支払われたのか。例えば別に人を雇用しなければならないとか、農家それぞれにということになったのかその辺について伺う。

新井課長

草刈り等の日当については、自分の土地ということではあるが、制度上は 1 戸でもやらなければほかの人にも影響を与えるということで共同活動の中に位置づけされている。自分の水路や畦畔の部分については日当で出されていることが多い。稼働実績に基づくが、全部出してしまうとお金が幾らあっても足りないことになる。全部を草刈りに当ててしまうということにはならないので、そういう意味ではならしている部分もあるとは思うが、基本的には稼働に基づいてやっている。農道などの共有部分については、組合でやっている部分、共同活動でみんなが出てきてやっている分についても実績払いとなっている。もしくは道路愛護組合などは今まで組合で補助金でもらっているが、そういった委託的な形でお金を出している。

副委員長

この制度自体は所得保障の形を変えた制度ととらえる方も多い。結局何戸くらいが参加して、日当として農家に支払われた金額が幾らか伺う。

委員長

ここで休憩する。

休 憩 11:30

再 開 11:31

委員長

休憩前に引き続き会議を再開する。答弁に時間がかかるようなのでほかに質疑がある方がいれば先に行う。

本 間

全体にかかわるが、農商工連携ということで聞きたい。決算当時にそのことを意識した内容の活動をしていたか伺う。意識していたなら決算書のどの部分が当てはまるのか。どのような成果が上がったか。組織連携の取り方も含めて独立した予算項目があったほうがいいと思うがいかがか。

多田部長

19 年度当初の段階で農商工連携というのは特に意識していなかった。ただ、商工と農政が課を持って部をなしていることと経済部の前進が商工農政部だったことから、商工と農政の連携というものを地域の中でどうやっていかなければならないかを課題としており、なかなか解決しづらい問題と理解している。一時期は産

業活性化推進室を市の中に設けたりしたが、何とか調整図っていきたい。地元からとれる優良な農作物を地域の中でどうやって拡大していくのか、商店のほうに何とか持っていけないのかといった観点からさまざまな取り組みがなされている。決算書の中で載っている部分としては、P201 の地場農作物の販売促進に要した経費で、米にしてもそうだが地元のものをどうやって販売していくのか、何とか地元で販売できるように消費者協会さんにも協力をいただきながら地元で販売できる道ができたり、ことしに入って中心市街地の中で地元のものが食べれる場所ができたりといった活動等も少しずつではあるが芽生えてきており、そういった市民の盛り上がりといったものを促進していければと思っている。独立した予算項目については、今後この農商工連携でどんなものに取り組むことができるのか。検討の一つとしては、菜種関連で何か取り組めたらと考えているが、事業として上がってきた段階で判断をしていく必要があると思っている。

委員長
山口

他に質疑はあるか。

どうぶつらんどだが、入り込み数が 13 パーセント減で 2,400 人減っており、主要因は天候不順という書き方をしているが、ほかにどういう原因が考えられるか。現在いる動物の種類と担当している人数等について分析してこの 680 万円は要らないような気がするが、どういう運営状況か伺う。

若山課長

19 年度の入り込み数については、前年度に比べて残念ながら減している。内容としては、大きく落ち込んだのが無料入園者数 23.9%である。分析した結果、オープニングのときに無料入園者が 2,000 名以上、3,000 名近くになるときもあるが、19 年度は 2,000 名を割っていることで前年度に対して 1,000 名くらい少ないのが響いている。有料入園者についても 5.6%減ということで落ちてはいるが、入園料自体で減しているのは 5%程度なので、大人の落ち込みは少なかったと思う。どうぶつらんどの職員については、ローテーションを組んでいるが、臨時が事務、券売、売店等で 1 名、飼育職員が 2 名の延べ 3 名という形で、どうぶつらんどの管理運営に要した経費で 680 万円となっており、このほかに職員が 1 名いるのでこの分は職員費で見ている。19 年からは大型家畜を減しているの、大型でいるのは名護市からいただいたラマ、そのほかにはウサギ、モルモットなど哺乳類としてはそういうものを主体としてふれあい動物というような中身でやっている。鳥類は 21 種類で百七、八十羽いる。使命云々とのことだが、無料ではあるが小学校などの教育のために来園いただいているところの数は減っていないし、近くの保育園などから来ている方も多いため、当初の目的である子供たちに動物との触れ合いで情操教育という観点では、まだその精神を引き継いでやっていることで推移を見ていきたい。

委員長
山腰

他に質疑はあるか。

どうぶつらんどについて、歴史はあるが少子化になって利用者数が減ると不要論が出てくる。滝川の自然がだんだん薄れていっている中で、触れられる動物を飼育していることで、あそこの憩いの場というのは幼児、小学生くらいは非常に喜んで親と来ている。遊具をふやせばいい、軽食できるところをよくしたらいい、ゴーカートをふやせばいいという問題ではない。いかに自然にお金をかけずにゆったりとした時間を過ごせるかという場所である。もっと工夫してお年寄りでも子供たちでも気軽に来れるようなことを考えたほうがよい。

委員長
新井課長

副委員長への答弁をお願いします。

農地・水の関係で、構成団体に参加している農業者が 550 名、機関団体が 94 名と

いう形である。ただし、この中には重複している人もいるので実数ではない。日当として支払われた分については、6,840万円程度である。

委員長

他に質疑はあるか。(なし) 質疑の留保はなしと確認してよいか。(よし)

以上で労働費・農林業費・商工費の質疑を終結する。若干早いがこの辺で昼食休憩とする。再開は午後1時とする。

休 憩 11:45

再 開 12:59

委員長

休憩前に引き続き委員会を再開する。

土木費

委員長

土木費の説明を求める。

岡部部長

(土木費について説明する。)

委員長

説明が終わった。これより質疑に入る。質疑はあるか。

渡 辺

① P217、除雪・排雪対策に要した経費が4億円程度ということで少雪で余れば不用額としていいが、排雪に力点を置いてはどうか。全部空知川に持って行くのではなく、近くの小公園や空き地、もちろん空き地といっても私有物なので頭を下げて少しの雪を山にさせていただくということを土木課の職員だけでなく、市職員全員が空き地の情報を知らせ合って小さな山をつくって経費節減をすればしっかり排雪できると思うが見解を伺う。

② P225、公園の管理に要した経費について、滝川公園が朽ち果てつつあるが、この中での費用、人件費もほとんどないと思う。土木課の方々が労力奉仕で草を刈る程度と聞いているが管理の状況について伺う。また、約68カ所の公園の修理状況について伺う。柵が壊れているとか鎖が切れているといった小破修理はどの公園でも毎年のように行わなければならないと思うが状況について伺う。

川本副主幹

① 市内に3カ所の雪捨て場を持っており、近くの公園となると大きなダンプで行かなくてはならない部分があり、雪捨てが煩雑になることで小公園等には捨てないような形を取っているのが現状である。

② 職員だけでなく、振興公社等に委託管理をして年4回程度草刈りをしたり、補修をしたりという形は取っている。風致公園ということで自然を生かした公園なのでなかなか行き届かない部分はあるが、管理は従前どおりやっている。修理については、振興公社に委託した中で発生次第修理している。金額や状況はここでは押さえていないが点検次第修理を行っている。

渡 辺

排雪について、係が言うことはわかるが、昨年のように雪が少ないといっても町内では雪が山のような状態である。少なければ少ないように予算を削ってためておくのではなく、排雪を1回のところを2回にするとか臨機応変な施策が必要である。金額の問題よりもそういう配慮が必要と思うがいかがか。

大平課長

昨年の少雪で排雪費用が浮いたが、我々は雪が多いときも少ないときも生活に支障がないようにということで現状を見ながら排雪を行っている。雪が少ないときに数を多くしていい状況にすると、逆に言えば雪が多いときにその状況をつくれないことになる。雪が多いときには補正をかけてでも対応していきだし、雪が少ないときは標準的な部分で現状を見ながらやっていることで、お金が残っているから何回もするといった考え方は持っていない。

委員長

他に質疑はあるか。

荒 木

① P217、街路樹の関係について、いろんな市民から多くの相談を受けている。街路樹の設置に当たり補助金があったという認識を持っているが教えていただき

たい。仮に移設ではなくて半分とか3分の1を伐採した場合、金額までは難しいかもしれないが大枠で結構なので、こういう補助金返還などが発生するということを教えていただきたい。

② 道路の補修の関係だが、財政が大変厳しい中で苦勞されていることは認識しているが、例えば簡易舗装しているところに砂利を入れるとか手当をしていただいたときの費用はP217の備考の道路の維持に要した経費に入るのか、あるいは市道舗装補修に要した経費の中に入るのか伺う。

川本副主幹

① 補助金はないという認識である。木を切ったときの補助金の返還についてはない。

② 舗装で穴を埋める場合は、市道舗装補修に要した経費の中で行っており、砂利のほうになると道路の維持に要した経費の中から支払っている。

荒 木

決算なのでこの費用870万何がしたが、私が質問している意図は、いろんな維持管理とか葉っぱの整理などに毎年使っている費用があるでしょうという言われ方をする。私は補助金が入っていると思っていたので、簡単に切れないのかなという思いがあった。補助金が入っていないとのことで半分かくらい間引きすると具体的な考えがあるのかどうか伺う。

大平課長

秋になると街路樹の苦情が数多く来る。町内会に落ち葉を拾うビニール袋やボランティア袋を配布することで協力を得ている。間引きとなると木も生活に潤いを与えるとかそういった部分での優れた点もあるので、伐採・間引き計画というのは考えていない。ただ、信号機や街灯の支障になる分については、状況を見ながら町内会との協議をしながら伐採することはある。

委 員 長

他に質疑はあるか。

副委員長

① P223、街路についての都市計画変更がこの間進められたが、公園についての都市計画の進捗状況というか、計画があと何カ所あって幾つ残っているとかといったことについて説明願う。

② P225、砂場の砂交換が19年度にトータルで何カ所行われたか。土木で管理している公園の箇所分の何カ所ということで伺う。また、すべて中古と思うが、新たな造成でない公園に遊具が設置されている。何カ所の公園にどんな遊具が設置されたか伺う。

③ 流雪溝域の戸数に対する組合費を納めていない戸数について、空き家になっている分、組合に入っている分も含めて全戸数分の何戸ということである。

④ 事務概要のP145でほほえみ会に公園の作業を委託しているが、全体でこれだけなのか。社会福祉法人や法人でない作業所も含めてほかであれば伺う。

⑤ 燃料の高騰が一番最初に始まったのが年度末だったが、予定価格の中に燃料高騰分をどういうふうに反映したか伺う。その都度積算資料や物価本に載っている価格がそのときの実勢価格に対応していればよいが、実勢価格で予定価格を組んだとかどういう根拠で燃料費の予定価格をつくったのか伺う。

小池主査

① 手をつけていない公園は全部で3カ所あり、これは街区公園である。手をつけているが完成していないのが2カ所あるが、近い将来に手をつけたいと考えている。

岡部部長

⑤ 除雪費の燃料価格については、滝川市が毎月やっている契約単価があり、それに基づいて積算している。除雪費については、契約条項の中で10%の高騰があれば、滝川市は短いサイクルでも契約しなおしているので、価格を見て10%を超え

川本副主幹	<p>ている場合は、設計変更の対象になり得ることで対応している。</p> <p>③ 流雪溝の戸数については、管理組合をつくり、班分けをしていただいた中で対応していただいている。役員会等があったが、その中でも空き家部分について特に問題になったことはない。</p>
副委員長	<p>④ ほほえみ会への委託だが、西6丁目公園、見晴公園、一の坂西公園の3カ所の草刈り、トイレ清掃をお願いしている。土木のほうで委託しているのはこの部分だけである。</p> <p>② 砂場の補充については、19年度は5カ所である。遊具は大町公園にブランコ1個を持って行っている。</p>
副委員長	<p>① 都市計画公園で手をつけていてまだ完成していない3カ所だが、具体的な場所について伺う。</p> <p>② 公園の砂場の数の分母をだいたいでもいいので願います。</p> <p>③ 流雪溝について、管理組合に入っているが実際は使わない人の比率についてどう把握しているか伺う。</p> <p>④ 福祉の委託の関係についてだが、委託して何年かたっているわけで作業として問題がなければ、さらに増加させていくのか伺う。</p> <p>⑤ 一般的な単品スライドはまだ発効したことがないと伺っていたので、こういう形で単品スライドをやっていたということを認識したわけだが、滝川市において除排雪の発注以外で単品スライドをやっているものが土木課の分野であれば伺う。</p>
岡部部長	<p>⑤ 基本的に除雪費以外ではない。</p> <p>④ ほほえみ工房さんも今のところで手いっぱいという話も聞いているので、最終的に施設の入所者が多くなるのであれば考えたいと思う。</p>
小池主査	<p>① 本町南公園といって本町の官庁通り、検察庁の向かい側に予定している公園である。それからハマナス公園といって中央老人センターの隣に予定している公園である。もう一つはルピナス公園で、中島町の区画整理事業でできる公園である。中途になっている公園2カ所だが、1つは緑町公園といって緑町団地の中にある公園で、一部建物があるので計画どおりの面積にはなっていない。緑町団地が改修になる時点で処理しようと思っている。もう一つについては、池の前水上公園がラウネ川の制水部全部を計画決定しているが、上流部については今のところ手をつけていない。それについては、自然のままに残すほうがよいのではという考えもあるので、この先どうするか考えたい。</p>
大平課長	<p>② 砂場の全体の数は正確な数ではないが50カ所程度である。</p> <p>③ 以前に調べた記録では30%程度である。加入運営協議会では対策として毎年論議はあるが、なかなか思うようにいっていない状況である。</p>
副委員長	<p>① 全国で一番公園面積が多いのが砂川で3番目が滝川ということだが、なぜそんなにたくさんふやさなければならないのか計画の根拠を聞きたい。既存の公園が古くなってもなかなか改良できない点で、計画の見直しなどについて伺う。</p> <p>② 砂場についてはいろんな考え方があるが、朝日町の公園のように動物が入らないように網を張ったりしてまで神経を使ってやっているところもあれば、10年に1回しか砂を交換していないところもある。潔癖に近いほうがいいのか、10年に1回でも子供には問題がないのか基本的な考え方について伺う。</p> <p>③ 流雪溝についてだが、高齢化してくると短時間では一度にできない。若い人がいるところはいいが、いない家では短時間対応ができないことで流す時間を長</p>

くしてほしいとか、そういうところへの配慮が必要と思う。このまま高齢化が進むとどんどんそういう状況になると思うので、そのあたりについてどのように把握しているか伺う。

小池主査

① 公園の1人当たりの面積については、かなり多いことは多い。なぜ多いかというと空知川と石狩川の河川敷地を利用した面積がとんでもなく多いためである。砂川も石山公園と河川地が入っているせいだが、身近な街区公園、近隣公園がそんなに多いわけではない。まだやっていないところについても、必要というところに計画を決定している。古い公園についての改修については、計画的にやっており、それらと3つ残っている新しい公園とをうまくつなげながら施工していきたい。

② 砂場を囲っているのは黄金東公園と思うが、そういう公園を設計する段階で町内の皆さんに集まってもらってどうするかを話し合うが、その中でこの地区については砂場は要らないのではないかという話もあったが、最終的に砂場は必要だからネットをつけてまでやろうという結論に達したということである。

大平課長

③ 高齢化も進み、委託されている方もおり、時間的にはかなり長い時間が取れている。流雪溝の現状では最大限取れており、1カ所当たり2時間以上は区間的には投雪時間と見ている。そういった話が協議会、総会等であれば論議していきたい。

委員長

他に質疑はあるか。(なし) 質疑の留保はなしと確認してよいか。(よし)

以上で土木費の質疑を終結する。以上で本日の日程は全部終了した。明日は午前10時から会議を開く。本日はこれにて散会する。

散 会 13:37